猿田彦ファームかわらばん2025 ～ 霜月～

こんにちは、伊藤です。
11月、狩猟の業界では「猟期」といって、狩猟をやっても良い期間に入ります。
狩猟免許を持った色々な方が付近の山林や田畑付近に出入りしますし、山から銃声が聞こえてくる時期になります。
私たちの猟友会グループでは通常人が立ち入らないエリアで銃猟を行っています。
概ね10時～12時くらいのことが多いですが、何かお気づきのことがあればお知らせください。

小岐須町秋祭に出店

小岐須町年一回の祭典である秋祭に出展させていただくのも3回目。毎回おなじメニューですと皆さんも飽きてくると思いましたので、今回は趣向を変え猪のドライカレー、猪唐揚げ、猪角煮（失敗してバラバラのそぼろになりました）の猪づくしで提供をさせていただきました。
今年は昨年に比べて猪の発生が多く、倍のペースで捕獲しています。町のみなさんの菜園を荒らしまわった個体なのだろうとは思いますが、彼らもまた生きるために、見つけた食料を食べたという、自然の理に基づいた行動を取ったにすぎません。
自然と私たち人間の生活のバランスを取るためにいただいた命、せめて美味しくいただいてもらえたのなら、とても嬉しく思います。

鶏・はじめました

といっても、鶏肉料理を始めたわけでも、養鶏を始めたわけでもありません。
私の古くからの友人が番いで買い始めたものの「住宅街に住んでいて早朝から大音量で鳴くため、近所迷惑になるから早急に手放したい、飼えないか？」との相談を受けました。飼えないなら山に放つというので、それならばと（あまり）使われていない弊社ドッグランに放鳥。
雨でも関係なく元気に徘徊しています。
さすがに鈴鹿山麓の冬を無防備で越せないと思うので、雪が降る前に防寒対策をしたいと思います。

鈴之峰の麓人（すずみねふもとびと）

鈴鹿山麓ではたらく人をご紹介するこのコーナー。
鈴鹿市花川町、500種類以上もの植物を扱う園芸店**【はるみ園】**様を訪問しました。

はじめは鈴鹿市にもたくさんいる植木生産者の一つでしたが、バブル期の終焉とともに「自分達の愛せるものを育てよう」とお花の生産を始めたのが両親でした、と語るのは3代目にあたる山越尚子さん。

かつて尚子さんは広告代理店に勤め、現在とは全く畑違いなお仕事をされていたそうです。
「営業先に広告の提案を持っていっても断られ続けて落ち込む毎日でしたが、そんな中もっていった実家のお花を買ってくれる方がいて**【お花を売ってる時は顔の表情も柔らかい】**そう言われた時、私は営業職じゃなくてもいいんじゃないか？と思ったんです。
きっと険しい顔で広告を提案していたんでしょうね（笑）」
自分の好きなお花を仕事にするべく、はじめは反対していた両親を説得し、家業のはるみ園で働くこととなったのです。

そこで役立ったのが前職の知識と経験。
はるみ園の広告宣伝をご自身で担当されていて、人生に無駄はないし、一次産業の現場にこそ求められるスキルだと実感していると話されます。

12年目の現在では、口コミで広がっている植物の寄植え教室が繁忙期には月間10箇所以上の大人気体験講座になっていて、大忙しの尚子さん。
ご自身の天職が最も身近にあったはるみ園だったのです。

尚子さんが作られた寄植え

「この仕事の良いところは、植物を買いに来てくださるお客様の笑顔や、生育をサポートしている植物たちの成長と変化に気付くことを通じて、心が豊かになることだと思います。
植物は動けないし、喋ることもできませんが、人間よりもずっと逞しく生き抜く力がある一方で、私たちの一回の管理の誤りで枯れてしまう弱さも併せ持っています。」
そうした植物の姿から日々学ぶことも多いのだとか。

実は鈴鹿で育った植物は鈴鹿ではほとんど買えないそうで、地域の人にこそ地元で育った植物を側に置いて心を豊かにしてもらえるようにしたい、と尚子さん。
これからクリスマスや年末年始にむけて、たくさんの寄せ植えもご用意されるそうです。
園内にいるだけで、色とりどりのお花に心癒されるはるみ園。
ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか？

〒513-1122　三重県鈴鹿市花川町100
有限会社　はるみ園
営業時間　AM9:00-PM4:00
TEL　059-374-3917

FUJIKORO816
↑はるみ園Instagram↑

猿田彦ファーム株式会社
〒519-0316三重県鈴鹿市小岐須町990番地
代表：伊藤 嘉晃（いとうよしてる）
直通Tel:090-1835-0277